

ギアチェンジ！ 広報部

新緑がまぶしすぎます。

圧迫感を覚えるくらいです。

広報部もちょっと焦っています。

花冷えの4月も、好天だったゴールデンウィークも慌ただしく過ぎ去りました。

もう徳島は初夏の中。

みかんの小さな花がさわやかな香りを放ち、

梨も白い可憐な花を咲かせました。

阿波の大河「吉野川」は水量を増し、

鳴門の渦潮も大きく海峡に荒ぶっています。

いま、徳島の自然は生命力に溢れています。

夏に向かって動き出した自然に遅れを取らぬよう

広報部も高速へギアチェンジする時が来ました。

4月28日（水）
第6回広報部会
広報部長ががんばっています。座ってなんかられない。



広報誌の愛称が

し こ く さ ぶ ろ う

《 四 国 三 郎 》

に決定しました！！



坂 東 太 郎

筑 紫 次 郎

四 国 三 郎



坂東太郎は利根川、筑紫次郎は筑後川、「[四国三郎は吉野川](#)」です。



日本の暴れ川の第3にあげられる吉野川。ちょっと誇り。



吉野川は高知県と愛媛県の県境にある瓶ヶ森にその源を発し、四国中央部から徳島県の北部を東に流れ、いくつもの溪流を合わせて、香川用水にも分流し、紀伊水道へ大きく河口を広げています。国土交通省のホームページでは「藍より青きよしのがわ」と象徴的に表現され、その姿はわたしたち県民の自慢ですよね。



広報部員が頭をしぼって、愛称の候補を提案しましたね。映画で有名になった「眉山」、特急列車の愛称にもなっている「剣山」、阿波踊りの「よしこの」や「やっとさあ」等の中から広報部長イチオシの「**四国三郎**」が実行委員会でも多くの支持を得ました。



「**四国三郎**」と言えば「**吉野川**」。徳島大会で「**四国三郎 吉野川**」がよりメジャーになるとうれいそうですね。

鳴門・高松方面から徳島市内へは必ず渡る「吉野川」。川幅が広く、水量豊かで、「よしのがわ」という響きも優雅で美しく「清流 吉野川」でもあります。



この吉野川は上流がから下流までそれぞれの美しさを保ったまま徳島市街に至ります。メイン開場の「アスティ徳島」はその徳島市街の東南にあります。





広報誌の愛称も決まり、いよいよ大会当日に向けての準備が始まりましたね。



講演者も「株式会社 いろどり」代表取締役 横石 知二 氏に決まり、あなたはまたプレゼンテーションのバージョンアップで忙しくなりましたね。



「人は誰でも主演になれる」という演題で講演してくれます。横石さんは山の資源を活かした商品開発をし、高齢者が使える情報ネットワークを作りました。おじいちゃん、おばあちゃんがICTを活用して「葉っぱビジネス」を展開しています。日本料理の名脇役「つまもの」であるもみじや南天・笹の葉を出荷してビジネスとして成立させています。



この「葉っぱビジネス」を成功に導き、企画力・演出力・革新性等が評価され、社会起業家と言われるまでになられた横石さんの講演、楽しみです。

さて広報部ですが、大会当日は少人数で取材から編集まですることになりますね。



詳細なタイムテーブルを作成して、ハプニングを最小限にとどめるようにしたいです。部員それぞれが自分の動きを繰り返しシュミレーションして、余裕をもって当日を迎えたい。



余裕をもって迎える……。むつかしいけれど努力しましょう。

昨年の福岡大会・一昨年の福島大会の運営マニュアルがこれからの作業に大変役立ちそうですね。

私たちも広報部活動と同時に、運営マニュアル作りも本格的になってきました。



(第6回広報部会 この日は寒い日でした)



マニュアル作成のためのマニュアル作りにならないように、実効のある簡潔なものにしたいですね。



広報部長はタイムテーブルづくりに取りかかりました。部長の負担も大きいので私ももう少ししっかりしなければ。



みんなギアチェンジしてきたから大丈夫。加速十分で突っ走ろう！！



積極的に声が上がってマニュアル作りもうまく進んでいきそうです。若手3人組が大活躍してくれそうな予感。